

<養老公園>

【沿革】

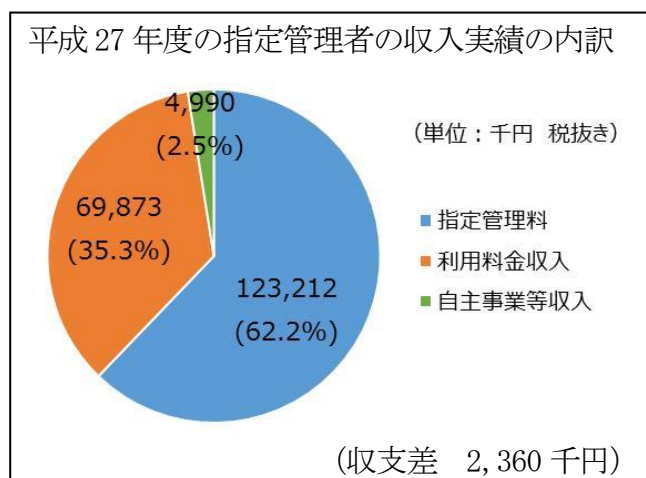
- 明治 13 年 10 月 17 日に開園。
- 昭和 49～58 年 岐阜県こどもの国、テニスコート等を整備。
- 昭和 60～平成 3 年 パークゴルフ場等を整備。
- 平成 7 年 10 月に、荒川修作氏とマドリン・ギンズ氏が設計した「養老天命反転地」を整備。
- 平成 10 年 4 月に「楽市楽座・養老」がオープン。

【施設特性】

- 面積 78.5ha
- 開園時間 有料施設のみ 9:00～17:00
有料施設以外 終日
- 駐車台数 1,220 台 (大型 23 台)

【指定管理者の現状】

- 平成 27 年度～平成 33 年度の 7 年間、指定管理者はイビデングリーンテック株。



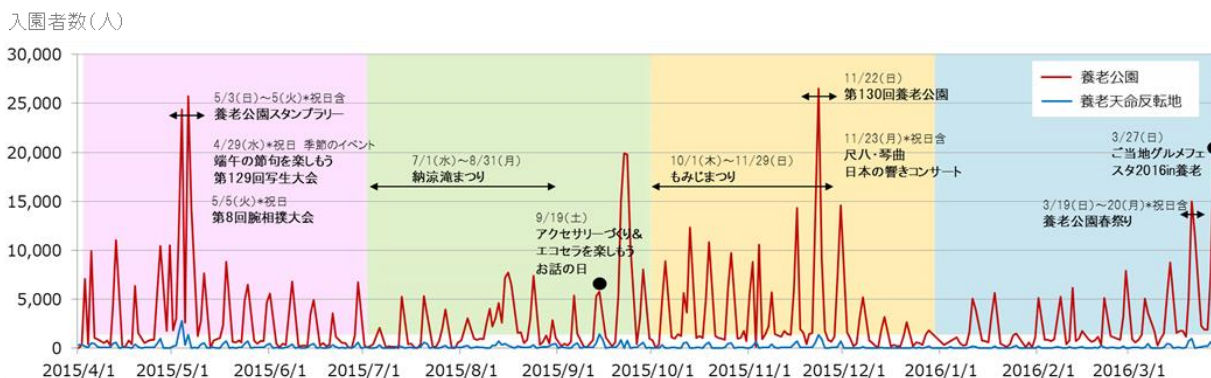
【地域連携】

- 養老町は、平成 25 年 3 月に策定した「新生養老まちづくり構想」において、養老公園エリアを観光・文化の拠点に位置づけた。

【入園者数等の動向】

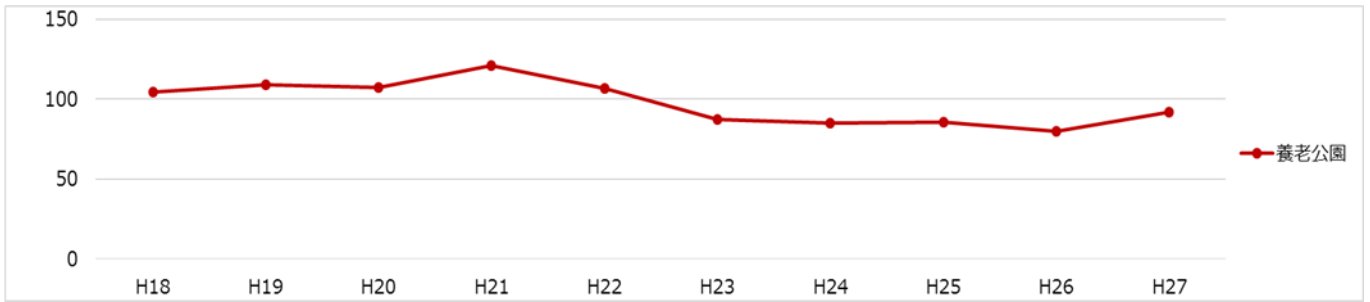
- 月平均日入園者数は、紅葉時期の 11 月が最も多く、次いで長期休暇がある 5 月が多い。また、冬の 12 月～2 月は利用者が少ない。

【日別入園者数推移】(平成 27 年度)



【年別入園者数推移】(平成 18～27 年度)

入園者数(万人)



【公園の主なイベント・プログラム】(平成 27 年度)

- ・ 養老公園写生大会(表彰式)、こいのぼりプロジェクト、養老公園スタンプラリー、季節のイベント、養老公園春祭り、養老天命反転地ツアーガイド、養老流しソーメン大会、養老鉄道おすすめハイキング(養老天命反転地)、大垣養老マルシェ、養老パークゴルフクラブ会長杯大会、日の出鑑賞会、ひょうたんワークショップ、ご当地グルメフェスタ 2016 in 養老 等
- ・ 「養老改元 1300 年祭」プレイイベント「親孝行ふるさとフェスタ」

【アンケート結果】(平成 26 年度 春・秋の平均)

【居住地】 岐阜県が 35.9%、愛知県が 34.1%

【年代】 19 歳～29 歳が最も多く約 23%、次いで 30 代、40 代がそれぞれ約 21%を占める

【性別】 男女比はほぼ半々である。

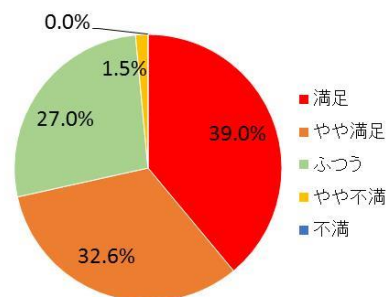
【利用形態】 家族(51.9%)、友人・知人(31.7%)、一人(7.1%)、団体(5.4%)

【来園頻度】 初めて(46.4%)、数年に 1 回(14.5%)、年に 1～数回(29.8%)、月 1～数回(6.4%)、週に 1 回以上(3.0%)

【来園動機】 家族団らん(23.1%)、散歩(17.0%)、自然観察・花見(12.5%)、スポーツ(11.0%)、ウォーキング・健康づくり(10.4%)

【滞在時間】 1 時間未満(0.8%)、1～2 時間(17.9%)、2～3 時間(40.3%)、3～5 時間(28.8%)、5 時間以上(5.9%)

【満足度】 満足(39.0%)、やや満足(32.6%)、ふつう(27.0%)、やや不満(1.5%)、不満(0.0%)



満足度グラフ

<養老公園の強み、弱み、機会、脅威>

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・開設して130年以上の歴史がある。 ・孝子伝説で有名な名瀑「養老の滝」があり、葛飾北斎も描いた歴史的価値を有する。 ・「養老の滝」が「日本の滝百選」に選定されており、養老山地から湧き出る水「菊水泉」は「日本の名水百選」に選定されている。 ・世界的に有名なアーティスト、荒川修作氏とマドリン・ギンズ氏が設計した芸術作品「養老天命反転地」を有している。 ・「こどもの国」ゾーンは、子ども向けの遊具やフィールドアスレチックが充実しており、家族連れでの来園が多い。 ・春のサクラや秋の紅葉は、東海地方の代表的な観光スポットとして定着している。 ・養老駅に近く、公共交通によるアクセスが比較的容易である。 ・養老鉄道で電車内に自転車を持ち込める「サイクルトレイン」が導入され、広域的な周遊観光のルートとして利用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進んでいる。 ・「養老の滝」までの主要園路（滝谷沿い）は、地形特性から、厳しい傾斜の園路が多く、ユニバーサルデザインに対応しておらず、休憩施設も少なく、利便性に欠ける。 ・公園自体の広さに比べて駐車台数が少なく、春・秋のピーク時には渋滞が発生する。
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の歴史的な地域資源としての、関ヶ原古戦場周辺等との連携。 ・平成29年に養老公園を主な会場とした「養老改元1300年祭」の開催。 ・東海環状自動車道の全線開通、および養老インターチェンジの供用開始（平成29年予定）によるアクセス性の向上。 ・養老鉄道沿線の広域的な活性化への取組みとの連携。 ・テレビ番組のロケーション撮影の場としての活用による知名度の向上。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催に伴うインバウンドの拡大機会の到来。 ・リニア中央新幹線開業による交流人口増。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少（少子高齢化）の進行。 ・公園施設の老朽化の進行による陳腐化。 ・類似施設との競合。 ・レクリエーションに関するニーズの多様化。